

令和 8 年 5 月 1 日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立富山東高等学校
校長 藤田 俊英

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「高きを求め 誠に生きん」のもと、生徒の可能性を伸ばす学習指導、生徒指導、進路指導の充実を図るため、

ア 勉学の意義を理解させ、積極的に学ぶ意欲を養う

イ 文武一貫の精神を理解させ、優れた人間性を養う

ウ 健康の尊さを理解させ、健全でたくましい心身を養う

ことを目標とする

2 学校の特徴

本校は昭和 37 年、当時 15 歳人口が急増し、高校進学率が 60%を超え、さらに向学の意欲が醸成され大学進学をめざす気運が高まる中、地域の熱い期待を担い創校された。以来、文武両道の精神のもと、勉学と部活動を両立する普通科高校として、着実にその実績を積み重ねてきた。平成 9 年には、自然科学分野においてリーダーとして活躍する人材の育成をめざし、自然科学コースを設置し、更なる発展を期して教育活動を実践している。

3 学校の現状と課題

校訓「高きを求め 誠に生きん」の精神が、教職員および生徒のあらゆる教育活動の根幹として深く浸透している。生徒たちはスポーツや文化活動に情熱を持って参画し、切磋琢磨する過程を通じて、事物の道理や自己を研鑽する術を身体的に体得している。また、日々の生活においても、他者に対する誠実さと謙虚な姿勢を重んじており、規律正しくも温かみのある、極めて好ましい学校文化を醸成するに至っている。

一方で、近年の学習活動を俯瞰すると、学習の動機が「大学合格」という近接目標の達成に偏る傾向が見られる。これまで本校が強みとしてきた知識習得型の指導は一定の成果を収めてきたものの、その反面、生徒自身の知的好奇心や、学びの本質を追究する姿勢が、受験対応という枠組みの中に留まってしまっていることは否定できない。

既存の正解や価値観が絶えず上書きされ、流動を極める現代社会において、過去の成功体験に基づいた知識の蓄積だけでは、未来を切り拓く力として不十分である。今、本校に求められているのは、既存の学習内容をさらに深化させ、生徒自らが「なぜ学ぶのか」「学んだことを社会でどう活かすのか」という学びの意味を再定義することである。生徒一人一人が、自らの資質・能力を主体的に更新し続ける「しなやかで力強い知性」を身につけることが、喫緊の課題となっている。

以上の現状と課題を鑑み、生徒の潜在的な能力を一層伸長させ、知・徳・体の調和のとれた全人的な発達を強力に促すため、本年度の学校経営課題を以下の通り設定する。

「高い志を抱き、自ら学びをデザインして未来を拓く生徒の育成」

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点 1 重点 2 重点 8	目標	①生徒の学力を向上させ、各自が進路目標を達成できる教育課程を編成する。 ②各教科の指導を通して、単に学力を身に付けるだけでなく、深い教養を身に付けた人間形成をめざし、積極的に学習に取り組もうとする生徒を育てる。 ③総合的な探究の時間では、各教科で身に付けた知識及び技能を活用し、問いの設定、調査方法の選択、振り返りを含む探究のプロセスを通して学びを深める。これにより、予測困難な社会においても、自ら課題を見だし、他者と協働しながら主体的・創造的に未来を切り拓く力を育成する。 ④自然科学コースの指導では、探究活動を通して自然科学への関心や探究心を高めるとともに、協働的に課題解決に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ⑤授業における I C T利用を推進する。（Google for Education の活用）
		計画	①生徒の進路・適性に応じて幅広い選択が可能で、教科・科目に関してより多様な履修を可能にする。自然科学コースでは、学校設定科目の充実を図る。 ②確実な基礎学力を付けるために、授業を中心とした学習習慣を確立し、予習・復習を主とした家庭学習を充実させる。 ③全教員による学習指導研修等により、教科指導の充実と学力向上に努める。 ④総合的な探究の時間では、生徒の実態に応じて探究のレベルを段階的に設定し、テーマ・分野別探究活動、進路学習、主権者教育を計画的に実施する。各活動を通して、問いを立てる力、情報を収集・分析する力、考えを表現し振り返る力を育て、各教科の学びを実社会の課題と結び付けて活用できるようにする。 ⑤自然科学コースの指導では、校外研修や探究活動に主体的かつ協働的に取り組ませ、自然科学への関心や探究心をさらに高める。 ⑥主体的・対話的で深い学びを I C Tで実現する授業を進める。
2	学校生活 重点 3 重点 4	目標	①自らの心身を守り、育て、健康に生きる主体者としての能力を身に付けさせるとともに、生活環境の美化および環境問題に対する意識の高揚を図り、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎力を培う。 ②「文武一貫」の生活を通して、自己を適切に管理し、責任ある判断と行動ができる自己指導能力を育成する。
		計画	①日常の健康保持増進に関する指導や、自らの健康観察を通して、心身ともに健康で明るい生活ができるよう指導する。 ②環境美化及び環境問題に関心を持たせ、積極的な実践力を身に付けさせる。 ③日頃から自己の体力向上や食習慣について関心を高め、自主的に健康を管理する大切さを認識させる。 ④あらゆる教育の場において、生徒との対話を心がけ、生徒及び生徒を取りまく環境を理解し、規範を「守らせるもの」ではなく判断の基準として理解させ、生徒の自己決定を重視した指導・支援を行う。 ⑤生徒会（執行部・自律委員会）活動を支援しながら、生徒自らが自覚と責任をもち、主体的に高校生活に取り組むことができるように指導・支援を行う。

項 目		目標・方針及び計画	
3	進路支援 重点5	目標	自己の適性を見極めさせ、適切な進路選択ができる生徒を育成する。また、進路目標の実現に向けて、学力を養成するためのサポートを学校全体で行う。
		計画	①「文武一貫」の考え方や意義を共通理解し、各学年・分掌・部活動顧問間で連携を図りながら、3年間を見通した進路指導を行う。また、時間管理を徹底させ、目標実現に必要な努力を続ける姿勢を育てる。 ②ホームルーム活動、総合的な探究の時間、面接、進路講演会、進路座談会等の進路学習を通して進路意識を高め、早期に進路目標を決定させる。 ③入試問題を分析し、教科担当者の授業力向上と、課題・模試等の応用を行い、進路実現の学力養成につなげる。
4	特別活動 重点6 重点7	目標	生徒の自主的、自発的活動の場を可能な限り多く設定し、その活動を通して責任、協調、進取の能力を養うとともに、豊かな人間関係や実りある学校生活を築くことのできる人間性を育成する。
		計画	①教職員と生徒の共通理解の上に、年間を見通した学校行事計画を立て内容や運営方法に工夫を加えていく。また、特別活動の目的や意義を明確にし、生徒一人ひとりが意欲的、積極的に参加することにより、自主的態度や実践的行動力を育成する。 ②部活動は限られた時間を創意工夫し、有効に活用することにより、内容の充実と競技力・技術力の向上に努める。また、そこで培われた主自主性・積極性を勉学に生かし、「文武一貫」を実践する。 ③生徒会活動での、集団の一員として、よりよい学校生活づくりに参画、実践する経験を通して、望ましい人間関係を形成する態度を育てる。 ④オリエンテーションや授業・HRを通して、主体的な読書習慣を身に付けさせるとともに、生徒のニーズに対応できる蔵書の充実に努める。
5	P T A活動 同窓会活動 重点9	目標	開かれた学校づくりに努め、保護者及び同窓生との連携・交流を推進する。また、保護者が生徒の進路選択のための情報を得やすくなるように工夫する。
		計画	①P T A、教育振興会、部活動後援会等の諸会合や各会報を通して、本校の教育活動を広く紹介するとともに、保護者との連携、及び同窓生との交流の推進を図る。 ②P T A進路指導委員会主催の「大学訪問」で、保護者との情報の共有化を図る。 ③本校勤務の同窓生との連携を強化し、同窓会組織と運営の充実に努める。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 富山東高等学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	「探究的な学び」を意識した授業作り
現 状	生徒は大変真面目で素直である一方、学習内容に対して疑問をあまり持たずに、全て知識として受け入れようとする傾向がある。論理的に思考し、答えを導き出す経験を積む必要がある。
達成目標	・「探究的な学び」を意識した授業の公開・・・年間一人1回以上の実施 ・他教科の公開授業への参加・・・年間一人1回以上 ・生徒アンケート意識調査(思考の変容)「根拠を持って考えを深めるようになった」割合80%以上
方 策	・教員相互の公開授業を積極的に行い、教科指導力や授業の質を高める。また、他教科の公開授業に参加し、自分の教科とのつながりを研究するなど教科指導に生かす。 ・生徒に対して教科への興味関心や理解度などに関するアンケートを実施し、更なる授業改善を図る。

令和8年度 富山東高等学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	学習活動（自然科学コースの指導）
重点課題	自然科学コースの指導では校外研修や理数探究に積極的に取り組ませ、自然科学に対する興味や関心を高め、主体的かつ協働的に探究する態度を育成する。
現 状	研修や実習のメニューは充実してきているが、生徒の学習の効果がより高まるよう、一つ一つの行事の内容を検証して改善していく必要がある。
達成目標	・校外研修や理数探究が学習や進路希望等に活かされたと思う生徒の割合・・・80%以上
方 策	・自然科学コースの専門科目や行事（筑波研修、理数探究中間講評会、自然科学コース発表会など）の内容の充実を図る。 ・近県の国公立大学との連携を推進する。 ・自然科学コースの行事に出来るだけ多くの先生方に参加していただく。

令和8年度 富山東高等学校アクションプラン — 3 —

重点項目	学校生活（保健指導）
重点課題	情報端末の使用による心身への影響を考え、健康を自己管理する意識を高め、健やかな学校生活を送ることができる生徒を育成する。
現 状	①自分のからだの健康な状態のリズムを自覚し、それを維持するための生活に主体的に取り組むことができる生徒 ②体調が悪くなったとき、その原因を考えることができる生徒 これら①②を達成するための知識理解と意思決定・行動選択ができる生徒が本校の目指す生徒像である。 昨年度の健康生活に関する生徒アンケート（R7.5月、R8.1月の2回実施）によると、スマートフォン・PCなどの情報端末との関わり方について「改善に努める」と回答した生徒がいずれの回も約90%いた。しかし、目の疲れを中心に身体的な症状を自覚している者は多く、意識と行動が一致していない現状も否めない。保健委員会では主に将来も含めた眼の健康に訴求する啓発活動を行ったものの、行動面での改善状況は定かではない。学習、部活動、睡眠の各時間の確保に苦心しているにも関わらず、情報端末に心身の健康を害されている状況を自覚した上で、実際の行動改善につなげ、自身の健康を管理する能力の向上が求められる。
達成目標	・情報端末の使用が健康に及ぼす影響を理解し、1月のアンケートで「改善に努めている」と回答する生徒が70%以上。
方 策	・健康生活に関するアンケート（5月、1月の2回）結果を、集中力やメンタルヘルスに関する学術的知見から分析し、情報端末との関わり方の改善を促す。 ・日常のさまざまな教育活動の中で、「保健だより」「相談室だより」などを通して、「健康」についての意識の向上を図る。 ・学校保健委員会で、アンケート結果をもとに、学校側、保護者の立場から問題点を明確にし、健康な生活の実現のため、意見交換を行う。

令和8年度 富山東高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	学校生活（生徒指導）
重点課題	スマートフォンの利用の仕方について、自らを律し、調整しながら自己管理できる生徒を育成する。
現 状	昨年度、スマートフォンの利用時間1時間未満と答えた本校生徒の割合は、46.9%である。日常に深く根付いているスマートフォンの利用の仕方について、利用時間やルール、マナーを含め、生徒が主体的に考えていく必要がある。
達成目標	・スマートフォンの利用の仕方を適切に判断し、守ることができると思う生徒の割合が90%以上
方 策	・スマートフォンの安全教室を通して、インターネット上のトラブルや注意点、ルールについて学ぶ。また、実践できる生徒を増やす方策として、生徒が作り宣言したルールを守る形として生徒の自主性を育てる。

令和８年度 富山東高等学校アクションプラン — ５ —	
重点項目	進路支援
重点課題	・進路意識を高め、目標実現に必要な努力を続ける姿勢を育てる。ふるさと富山の未来に寄与する姿勢を身につける。 ・進路目標を達成するため、文武一貫の基礎をなす生活を安定させる。
現 状	・自己の適性、能力に対する認識が曖昧であり、適切な進路選択を主体的に行うことができない生徒がいる。 ・生活が不安定で学習習慣が確立されていないため、目標実現に必要な家庭学習時間が確保されていない。部活動との両立や週間課題の取り組み方を考える必要がある。
達成目標	・富大訪問の満足度、８０％以上 ・安定した学習習慣が確立できたと思う生徒の割合６０％以上
方 策	・社会的・職業的自立に向けたキャリア教育・職業教育を推進し、生き方や在り方を考えさせる中で、学びの必要性を説き、学習意欲を喚起させる。大学訪問や体験授業等を通して、目標とする大学について考えさせる。ふるさと富山に対する感謝の気持ちを養う。 ・１、２学年は４・９・１月に、３学年は４・９月にそれぞれ学習時間調査を行い、担任、授業担当、部活動顧問等による面談や学年集会、ホームルーム活動等を通して、時間管理能力を養い生活を安定させ、家庭学習の充実を図る。

令和８年度 富山東高等学校アクションプラン — ６ —	
重点項目	特別活動
重点課題	部活動・学校行事・生徒会活動などを、生徒の自主的実践力を引き出す機会と捉え、自らを律し、調整する力を身につけさせる。また、仲間と協力して最適解を見出す力を身につけさせる。
現 状	・限られた環境（活動場所・活動時間）の中で、生徒は学習と部活動との両立を目指している。 ・本校の学校行事や生徒会主催の行事が、生徒の自主的実践力を高める機会になっている。
達成目標	「体育大会」や「東窓祭」、「部活動」において生徒が自ら工夫し、仲間と協力し参加した割合・・・８０％以上
方 策	・学校行事や部活動、生徒会主催の行事を生徒が中心となって企画運営することにより、自主的実践力や協力性を養う。 ・日頃の学習活動の成果を生かしつつ、豊かな人間関係の育成に努めさせ、体育的な活動、文化的な活動を創造し発信させる。

令和 8 年度 富山東高等学校アクションプラン — 7 —	
重点項目	特別活動
重点課題	図書館利用の向上を図るとともに、読書習慣を身に付ける。
現 状	生徒は主体的な読書活動に乏しく、図書室での貸出冊数も少ないのが現状である。また、課題解決、進路探究、小論文などで本や書籍を必要とする場面でも、(ネット検索で調べることは行いが、)実際に図書館内の文献や資料を探して深めたり、活用したりする仕方や習慣が身につけているとは言えない。
達成目標	生徒 1 人あたりの年間読書冊数・・・平均 4.0 冊以上
方 策	・図書委員による本の紹介、図書館だよりの発行、本の紹介文・読書感想文の募集、読書会、その他図書委員会活動を通して、校内の読書活動を推進する。生徒が読みたい本をそろえることにより、図書館利用を促進させる。 ・図書館オリエンテーションを通じて、主体的に図書館を利用するように指導する。(1 学年) ・総合的な探究の時間、自然科学コースの理数探究(課題研究)、各教科の課題、生徒の進路に役立つ書籍や資料について、図書選定委員会・学年・コース・教科と連携して、それらの配置の充実に努める。 ・クラス読書会では、いろいろな分野の本を取り上げて生徒の興味と関心を引き出し、読書の深化と領域拡大を図る。 ・図書館を授業においても一層活用するために、Wi-Fi 環境を整えた。今後、タブレット等を用いて、効果的な図書館の利用の推進を図る。

令和 8 年度 富山東高等学校アクションプラン — 8 —	
重点項目	学習活動 (I C T の利用推進)
重点課題	授業および学習の I C T 化推進 (Google for Education の授業等への活用推進及び「Classi」の活用)
現 状	生徒はタブレットの活用に慣れてきており、その使用方法や基本的な習慣も身に付いてきている。また、1・2 学年では「Classi」を導入し、個別学習での活用を推進している。しかしながら、現状では主体的な活用とは言い難く、さらなるリテラシーの向上が必要である。 Forms を利用した生徒諸調査が増え、普及してきたが、まだまだ生徒の未回答や回答不備が多いのが現状である。
達成目標	学校外でのタブレット利用目的が、個別学習(予習・復習、週間課題、自主的な学習、課題研究・探究活動での検索や記録)に関するものである生徒の割合・・・全体の 80%以上。
方 策	①Google for Education の授業等への活用推進について ・教師の方策 授業デザイン：主体的・対話的で深い学びを I C T で実現する授業の工夫 互見授業：教務と協力し推進 I C T 利用：課題の提示・回収・採点 授業解説動画などの公開 ・生徒へのアクション クラスルームの活用を提示、Forms などのアプリケーションの利用推進 ②「Classi」を導入した。I C T を活用した生徒の家庭学習、個別学習を推進する。

令和８年度 富山東高等学校アクションプラン — 9 —	
重点項目	その他（ＰＴＡ活動）
重点課題	保護者との連携を推進し、必要な情報を得やすくするよう工夫する。
現 状	・各専門委員会を年に２回実施しているが、ＰＴＡクラス役員の参加は７割前後にとどまっている。 ・ＰＴＡ行事での参加者の満足度は高いが、全体研修会は４年間同じ講師が続いており、不満に感じている保護者もわずかにいる。
達成目標	「各専門委員会」への参加割合・・・75%以上 「ＰＴＡ行事」での参加者の満足度・・・90%以上
方 策	・ＰＴＡ活動への関心を高めるため、ＰＴＡ各専門委員会やＰＴＡ行事を、より多くの保護者が参加したいと思える魅力あるものにする。そのため、各行事の内容のさらなる充実を図るとともに、行事開催の連絡・周知方法を工夫する。 ・ＰＴＡ行事実施後は参加保護者に対してアンケートを実施し、今後の取り組みに活かしていく。